短 報 Short Notes

エゾセンニュウの渡りに関する研究

II. 渡りの日数, 群構成及び生理状態

中 村 司*・石 沢 慈 鳥**

エゾセンニュウの分布と渡りのコース等については、本誌第4巻第2号に於て詳細に述べたが、本種の渡りに於ける本州縦断に要する日数、群構成、体重、脂質量、渡りの生理状態などについては本論文に述べることにした。

従来本州通過の際に於ける本種の観察記録が極めて稀であったため、本種の渡りについては不明の点が多かったが、幸い大分県水ノ子島灯台、其の他の灯台の諸賢のお協力により多数の衝死鳥の途付を頂き調査する機会を得、次の諸事項について知ることができた。

本州縦断に要する日数

エゾセンニュウの本州通過は、春の渡りでは5月下旬から6月中旬、秋の渡りでは8月下旬から10月上旬までで、春の渡りの方が渡りの期間が短かく、秋の渡りの方が長くかかる。日数については春は(本種の採集された期日や北上に伴う生殖腺の発達状態などからみて)10—15日ぐらいであり、又秋は採集期日が非常に長いことからみて15—25日ぐらいを要するものと思われる。

春の渡りの期間の短いことは多くの旅鳥、夏鳥に共通する習性で、春の渡りでは目前に繁殖をひかえているからである。しかるに秋の渡りでは、その必要もなく、また多くの幼鳥も混じっているから、老幼ともに体力を養いながらゆっくり越冬地に渡るからである。

群 構 成

先づ春の渡りに於ける群構成について述べる。本種は10羽から30羽ぐらいの群で渡るものと考えられるが、春に得られた個体は老幼を区別すること殆んど不可能であったので、本種の老幼による群構成については不明である。

しかし本種の性別による群構成は判然としている。灯台衝死鳥によれば、渡りの順序は♂が始めに渡り、中頃に♀とともに渡り、最後に♀が渡るような結果がでた。

さて1群中の♂が早く渡り、♀がおそく渡ることは多くの夏鳥、旅鳥、長い渡りをする漂鳥に共通する性質である。この習性は石沢が多年灯台衝死鳥について研究した結果、充分確認しているところである。

多くの渡り鳥は一地方又一地域に繁殖したものは毎年同地方乃至同地域に繁殖するもので、繁殖期以外にはいつも群を構成し、行動をとともにしているものと思われるので渡りのコー

* 甲府市 山梨大学学芸学部生物学教室 ** 山階鳥類研究所気付

ス、渡りの時期、越冬地なども大体同じであると考えられる。

1群中の♂群は♀群に先立って越冬地を出発し（又は途中までは♂♀同行し、途中から♂群が早くなるものかも知れない）毎年大体定っている特定の繁殖地に至り個体縄張りを定め、其後10日内外おくれで♀群が到着し、番を形成するものと考えられる。

また繁殖の遠近による相違によって、グループには少し早く渡るもの、ややおくれで渡るものがあるものと考えられる。

これを証明するために、1961年水ノ子島灯台に衝死したエゾセンニュウを例として考えてみよう。

5月19日…………♂7+♀1=8羽

5月21日…………♂26+♀1=27羽

5月24日…………♂16+♀2=18羽

6月5日…………♂10+♀4=14羽

6月4日…………♂4+♀6=10羽

6月9日…………♂4+♀5=9羽

6月10日…………♀6 = 6羽

水ノ子島灯台は多数のエゾセンニュウの集中落鳥するところで、同じ月日のものでも数群の一部のものが混じっているものと考えられる。

以上の例によれば、はじめ（5月19日—5月24日）に渡るものは大部分♂であり、おそく（6月10日）渡るものは大部分♀である。中頃（6月5日—6月9日）渡るものに、♂♀ともに多いのは、おそく渡る♂群の一部と早く渡る♀群の一部とが混じっているためであると考えられる。

次に秋の渡りにおいては、1群中に♂♀老幼を見られるが、これは1乃至数家族が混じっているものであろう。

渡りの生理状態

体重や体脂質、肝臓内脂質重量などは、南北に位置する数個所の灯台から送付された個体を比較しても、渡りに伴う重量の低下は殆んど認められなかった。又皮下脂肪と内臓その他の脂質重量では、2、3の例を除いては皮下脂質の方が大きいことが判った。肝臓及び肝臓内脂質の重量など、個体変異は大きいが、体重に対するパーセント重量はさほどの変化はないようである。従って渡りの期間と上に述べた体重、脂質重量変化の結果から本種は一部のシギ、チドリ類に見られるような長距離の海上を無着陸で一気に飛翔するものでなく逐次採食しながら渡るものであることが推定された。

この事実は春の渡り鳥の生殖腺が♂♀とも北方の繁殖地に近づくに従って著しく重量を増していることから裏づけられる。本州縦断には10—15日間位を要して渡るものと思われる。

あ と が き

石沢は1923年から現在まで断続的に灯台の衝死鳥により渡りの習性を研究してきたが、過去10年以來はことに熱心にやりその成果は鳥、野鳥、灯光、山階鳥類研究所報告などに発表して

いる。本論文（エゾセンニュウの渡りに関する研究 I, II）は中村と共同で行った。論文第 I 報は主として石沢が担当し第 II 報は中村が担当し、その詳細は山梨大学学芸学部研究報告 16 号に掲載される（英文）。なお第 III 報は「体内及び肝臓内における脂質」と題して都合により第 II 報より先に同上報告 15 号 148—153 頁（中村）に掲載されている。

Studies on the migration of *Locustella fasciolata*

II. Duration of migration, flock formation and physiology

Tsukasa Nakamura and Jicho Ishizawa

On migration, *Locustella fasciolata* passes Honshu from late May to mid June, and from late August to early October. Thus in spring the migration lasts 10—15 days while in autumn 15—25 days. This is the general rule in birds since they make haste in spring for breeding. In spring migration early flocks consist chiefly of males mixed with few females and later ones with more females. The lipid amount varied little by birds obtained in northern and southern Japan, and this may indicate that they migrate step by step taking food while moving.

*Nakamura, T. Biology Dept., Yamanashi University, Kofu City, Ishizawa, J.
c/o Yamashina Inst. for Ornithology.*

「エゾセンニユウの渡りに関する研究」(No. 22) 訂 正 補 遺 (Corrigenda)

石 沢 慈 鳥 ・ 中 村 司

頁	行	誤	正
64	上より9行目	1924年	1923年
65	下より2行目	Kii Hinomisaki	が正しい
65	下より1行目	430	530
66	上より6行目	水子燈台	水子島燈台
66	上より11行目	1961 522(2)	を除く
66	上より12行目	種子島	種子島燈台
66	上より22行目のはじめに「に渡り、それから第1コース」を入れる。		
66	上より26行目	34羽	35羽
67	上より18行目	1930年頃6月	1953年6月16日から20日まで蒲谷氏兄弟が
67	上より19行目	星野旅館にて	星野旅館附近にて
69	上より6行目	第2コース	第3コース
69	上より8行目	属する鳥の次に「の1部」を入れる。	
69	上より8行目の最後に「第4コースとなり」を入れる。		
69	上より9行目	第4コースの次に「にぞくするもの」を入れる。	
69	上より17行目	橋本喜七	橋本幸七
69	下より6行目	鳥談片の次に「野鳥」を入れる。	